

平成28年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

開拓魂で未来を拓く 住民総活躍のむらづくり

○集団等の名称 大野地区公民館（代表 前田 清輝）

○所在地 鹿児島県垂水市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

垂水市は、大隅半島の北西部、鹿児島湾に面している。垂水市街から東北東へ約13kmの大野地区は、大正3年の桜島の大噴火で家や田畑を失い移住を強いられた人々が入植して開墾したのが始まりで、標高550mの中山間部に位置し、夏は冷涼、冬は寒冷な気候である。

この気象条件を生かして茶や豆類、さつまいも、高原野菜の栽培に加え、地区内の9割以上を占める森林資源を活用した林業も盛んであるが、住民の約半数が65歳以上という過疎化・高齢化が進んでいる地域である。

・むらづくり組織の概要

- ① 高度経済成長以降、人口流出・過疎化が進行し、地元小中学校の閉校などを目の当たりにした地区の後継者等が昔の賑わいを取り戻したいと、平成22年に約30年ぶりに青年部を復活させた。
- ② 青年部等を中心に地区住民が「10年後のありたい姿」を実現するため、集落の話し合いを通じて行動計画「大野づくり計画」を2年7ヶ月かけて策定した。
- ③ 住民主体の自治組織である大野地区公民館が、「大野づくり計画（人を増やしたい）」の実現に向け、地域資源を活かした農業生産や商品開発、大学との連携、交流活動等に取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

（1）農林漁業生産面

- ① 標高550mの冷涼な気候や寒暖差を活かした茶、さつまいも、高原野菜などの農業と、造林事業や林産物を組み合わせることにより、所得の向上を図り後継者を確保している。
- ② 地域の保存食「つらさげ芋」に価値を見出し、ブランド化に取り組むとともに、貯蔵庫、つらさげ場を整備し、地域全体で生産拡大に取り組んでいる。
- ③ 女性加工グループは、つらさげ芋のスイーツの開発、養殖ニジマスの甘露煮や燻製の製造、郷土料理などの商品開発や加工販売などに取り組み、女性が主役の6次産業化を積極的に推進している。

（2）生活・環境整備面

- ① 平成22年から開始した大野原（うのばい）いきいき祭りにおいて、つらさげ芋や地域農産物を販売しており、毎年1,500人が訪れている。
- ② 大野の人たちや地域の豊かさの魅力に惹かれた若者を受け入れるため、NPO法人を設立し、ソーシャルビジネス等の創出、空き家改修、交流活動等を通じた定住促進により、近年は、わずかながら人口増加傾向となっている。
- ③ 大野地区公民館、鹿児島大学、垂水市が連携して運営する農山村フィールドや廃校を活用した自然学校に、県内外から年間3,000人の子ども等が訪れ、地域に賑わいを創出している。
- ④ 若い力で伝統芸能の「棒踊り」を継承するとともに、鳥獣害防止対策や生活環境整備（簡易水道の設置や神社の改修など）に、住民一体で取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

全国の中山間地が抱える過疎化・高齢化の悩みの中で、本地区は、住民の危機感への解決策を行動計画としてまとめた「大野づくり計画」を策定・実践した。

農業生産の拡大と農業再編による所得の確保はもとより、外部の若い力を取り込みながら、住民総活躍の開拓魂でむらづくりに挑戦し続けることで未来を切り拓いている事例であり、小さな地方創生、過疎地域のモデル事例となり得るものである。